

ドングリの跳ねて見上げる空青し

9月24日

静かな白樺林の観察道階段で、ドングリが落ちて跳ねるので空を見上げると、視界の周りから中へ向かう木の先端の先に見える青空が印象的で、気持ちが良かった。

スタートすカウントダウン昔壽まで

10月15日

昔壽=大還暦=120歳は、最近始めたカウントダウンの今日から12784日目にやってくる。大還暦を一応の目標にしながら、ジョイラ（エンジョイ・ライフ）個人暦を日々に綴りながら、楽しみの開発・享受の日々をたどる毎日が始まった。

でも、すぐ死が来てもこわくない。行ってみたい気も、どこかにあるのが面白い。

めざすのは2度の還暦游行期

10月19日

五木寛之著の「林住期」の生き方に共鳴して生きており、その後を「林遊期」と、呼んでみたが、大還暦までの日々を、楽しみながら、制約からの自由・解脱・超越を、心がけながら行く日々にしたいと思って、やはり、古代インド人の第四期区分名=遊行期に戻って呼ぶことにした。

今日も見ただんだん白く富士の山

11月 4日

先月10月の富士山は、公園の富士見場所を27日通って、富士が見えたのは4日だけであったが、11月に入ったら4日連日で今日も見え、我、多分カンジ=莞爾。

有明の十八夜月西に在り

11月 7日

十五夜満月の二夜後の朝、森林公園の、朝日を受けて明るい西方の丘の家の屋根の上方に、満月に近い有明の月が見え、感激しながら、スマホのラジルラジルから流れる音楽と掛け声に合わせて、ラジオ体操をした。

不思議な気持ちにさせられた。

友往きて東雲赤く燃える秋

11月15日

6組石塚敬一君（ずっと敬ちゃんと呼んでいた）が8月31日に亡くなったという喪中はがきを受けた日の翌朝散歩で、川沿い東への直線道の先に、日の出前の光を背にした雲が濃い赤色に燃えるのを見た。彼の人生の輝きを思い出して、再生するような気がして立ち止まり、ご冥福と再生を祈った。

中学時代の生徒会で組んだ彼と共有したテーマは、<自由と規律の実現>だった。こちらはしばらくこの世を楽しむつもりでいるが、又会おう!!

以上。

個人暦12749の日に記入。 写真を添付します。

写真: 上段…第一句青空と 古代芝生広場 中段…第五句有明の月と 第六句東雲

下段…12752 の日 森林公園古代芝生広場西の紅葉と空

